



きらめき未来塾

2011

～次世代を担う高校生のために～

報 告 書

2011年9月

きらめき未来塾事務局

目 次

1. 理事長挨拶（理事長 齋藤洋一）	1
2. 高校生のための2011きらめき未来塾を開催して（名誉塾長 大竹美喜）	2
3. 発起人代表挨拶（発起人代表 大石正守）	3
4. 概 要	4-5
5. 塾生の所属高校	6
6. カリキュラム	7
7. 講師紹介	8
8. 2011きらめき未来塾 講師インタビュー	9-13
9. 活 動 報 告	
（1）講義について	14-15
（2）チームミーティングについて	15-17
（3）パネルディスカッションについて	18-19
（4）レクリエーション・合唱について	20-22
（5）朗読～二十四の瞳	23
（6）星空観察について	23
（7）野外学習について	24
（8）サポーターについて	25-26
（9）東日本大震災 被災地の高校生の参加について	26-27
10. 塾生の声～ふりかえりシートから	28-29
11. 事務局総括～反省と来年に向けて	30-31
12. 事務局活動	32
13. ご協賛・ご協力いただいた法人・団体・個人	33
14. 後援・協賛・理事会	34
15. きらめき未来塾2011 スタッフ・ご協力いただいた方々	35
16. プレスリリース	36-37

1. お礼とご報告

きらめき未来塾 2011 は、平成 23 年 8 月 1 日から 5 日までの 4 泊 5 日の日程で瀬戸内海に浮ぶ香川県「小豆島」で行われました。日本で初めてオリーブが小豆島に根付いたのが約 100 年前だそうで地中海に似た温暖少雨な観光地としても知られるところで地元からの多大な歓迎を受けての開催となりました。

きらめき未来塾の開催は第 7 回目となりますが、これ迄の開催の実績が高く評価されて NPO 法人として一ランク上の認定 NPO 法人となることが認可されました。このことはご支援いただきます方々の浄財が税法上の特別措置を受けられる特典が付与されるということであり、数多くの NPO 法人の中でも極めて少ない特典を頂戴したものであります。この期待と評価に応えるべき活動を今後も維持できる様にと気持ちを引き締めて行われました。

また、「認定 NPO 法人きらめき未来塾」となったのを機会に、期待する塾生の将来像を考えました。理事、事務局員、サポーターが一丸となって会員皆様、関係者の皆様と共にカリキュラムの策定から実施、そして卒塾後のフォローに至るまでの基本理念を一貫して実践して行くことを申し合わせました。

すなわち、きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材の育成、そして将来的に日本を支えるリーダーを養成します。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける「心強き人」
2. 思いやりを持ち、共生できる「心清き人」
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある「心深き人」
4. 世界中の仲間とコミュニケーションができる「心広き人」
5. 強い責任感と行動力のある「心熱き人」

を定めました。

この理念を基盤とした人間形成の場を提供することを基本としてカリキュラム編成にあたりました。

これらにご賛同いただいた各界の第一線で活躍されている方々に講師を依頼し、情熱あふれる御講義をいただきました。またリーダーとしての必須条件でもある自分の考えを率直に表現し、さらにコミュニケーション能力を高めるために各講義の後には、講義内容を題材とした討論、ミーティング時間を設けました。人間としての思索のプロセス、思考収斂の仕方、他との協調の取り方などの機会を設けました。

新大阪駅集合後、小豆島までの道のりでは前田講師やサポーター達の指導の下にアイスブレイキングが行われ、初対面同志が共通の認識の下に生活する下準備がとられ、到着後の入塾式では浜田恵造香川県知事の歓迎の辞に始まり、大竹名誉塾長の「夢の実現に向けて」と題する講話があり、塾生活が始まりました。

講義の内容は別掲のカリキュラム内容をご参考にさせていただきたいと存じますが、大変に適格な質問、講義を聞いて涙する塾生もあり、また柳本講師、朝原講師らの実技指導もあり、二十四の瞳の朗読、キャンプファイヤー、野外学習としての寒霞溪登山などと何時までも思い出に残る青春の一齣を送れたものと考えております。

また今回特筆すべきことは東日本大震災の現地からの高校生参加とその機会を作っていただいた布施孝尚登米市長の参加です。現地の生々しい実状とその時何を思ったかという体験談は塾生に大きなインパクトをあたえた様です。

また、開塾に先立ちまして「次世代を担う青少年の育成」と題する記念パネルディスカッションが多数の聴衆の参加の下に開催されました。大竹美喜名誉塾長のコーディネーターで、パネラーとして岡田好平土庄町長、塩田幸雄小豆島町長、細松英正香川県教育長、濱本英輔ロッテ株式会社顧問、柳本晶一アスリートネットワーク理事長、朝原宣治アスリートネットワーク副理事長の各氏が熱弁をふるわれ多くの共感が得られたことと存じます。

この様な素晴らしい機会が得られましたことには多くの方々の善意でもって支えていただいたものと心から深く感謝申し上げます。

まず、地元香川県小豆島の皆様方のご理解とご協力、そして細やかな運営についてご配慮いただき、資金面ではこの趣旨にご賛同いただいた個人会員、法人会員の皆様の浄財をいただき、また社会奉仕、青少年育成をこの場で実践していただいた大阪大淀ロータリークラブの皆様、さらにご多忙なところご協力いただいた講師の方々、チームとして行動出来るようにと親身になってお世話いただいたサポーターの皆様、一年かけて準備し、当日の円滑な運営に携わった事務局の皆様方、これらが一つ欠けても今回の成果は得られなかったと思ひ、皆様方に心から感謝の意を表したいと存じます。

10 年、20 年後ここで学んだ塾生の皆様方が日本のリーダーとして活躍される時、日本は活力のある明るい国になっていることを確信しております。

認定 NPO 法人きらめき未来塾
理事長 齋藤 洋一

2. 高校生のためのきらめき未来塾 2011 を開催して

2005年、「広い視野を持ち、大きな構想力と情熱によって、日本社会に貢献できる人材を育てたい」という、高い志のもと広島で産声をあげた「未来塾」。翌年、この志を同じくする「近畿未来塾」が発足し、2009年NPO法人化されました。この「未来塾」の志、想いを受け継ぎ、より磐石な運営基盤、組織とするため、本年は認定NPO法人として「きらめき未来塾」が開催されました。

8月1日～8月5日までの5日間、香川県小豆島に近畿地区、広島、関東、地元小豆島、そして東北から65人の高校生が参加し開催いたしました。

3月に発生した東日本大震災は、われわれ日本人に大きな課題をつきつけました。今回の課題を解決し、復興を担うため被災した宮城県から5名と一緒に学ぼうと参加しました。

急遽、この5名から震災の状況について直接話を聞くカリキュラムを設定し、震災当時の様子、またその後、ボランティアとして活動した内容を発表してもらいました。現状を生の声として聞くことで、塾生たちは今の自分たちにできることを見出しておりました。

このカリキュラムは、塾生にとって将来に向けてどのような役割を果たすことができるのか多に考えるきっかけとなりました。何故なら、今回の震災がもたらしたものは日本国内に留まらず、人類、世界に対し21世紀をどのような世界、文化とするのか問いただすものであります。

このような課題に直面し、リーダーシップを発揮するには自分は何であるか、日本人とは何か、また日本人であることを強く認識することが大切だからです。でなければ日本を正しく導くことはできません。自国の文化を知ってこそ、相手の文化、習慣が理解できるのです。

真のリーダーとは尊敬される人です。リーダーとなるためには何が必要かを考え、また一人ひとりが自分の「目標」や「夢」を持ち、それを実現する道筋を「気づき」「発見」する場が未来塾です。世界で活躍する社会人講師の講義やグループディスカッション、グループワークを通じ、将来の人生設計をするためのヒントを得たものと思います。

最終日の皆さんの顔つきは、夢と希望にあふれ、充実感がみなぎっていました。5日間という短い期間でしたが、講師の方々や仲間から刺激とアドバイスを受け、「新しい自分」と出会い、人生の目標を定めるための一歩を固めることができたのではないかと思います。

今回、未来塾に参加された高校生の皆さんには、社会を少しでも良くしよう、人の役にたちたいと思い、他の人がするのを待っているのではなく、「人がやらないなら、私がやる」と自ら動き出し、コンパッション（情熱とひたむきさ）と冷静なプランニングによって活動していった欲しいと思います。また、今回の震災の復興、復旧に向けて次世代のリーダーとして活躍することを期待しております。

夢の実現に向けて－Never Give In！－自分との戦いに勝利する。

本年度の未来塾は、小豆島の皆様の全面的なご協力、ご支援のもと開催することができましたことに、あらためてお礼申し上げます。地域の特異性を見出し地元と一体となって取り組むことは、地方自治や地域活性化に向けたヒントになったのではないのでしょうか。参加した高校生にとっても、自分が住む地域との比較、他の地域の現状を認識することで、日本の将来のあり方について考える機会になったと思われまます。

また、未来塾開催を前に「次世代を担う青少年の育成」をテーマにパネルディスカッションが小豆島で開催されました。このディスカッションには香川県の教育委員会、土庄町、小豆島、そしてきらめき未来塾の関係者がパネラーとして参加し、日本、そして地域に即した育成についての提言を行いました。ご尽力賜りました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが「きらめき未来塾」開催にあたり、香川県をはじめ、多くの企業団体、個人の皆様からご賛同、ご支援、ご協力を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。お陰様で成功裡に終了いたしましたことをご報告申し上げますとともに、「きらめき未来塾」も皆様のご期待に添えるようさらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。

認定NPO法人きらめき未来塾
名誉塾長 大竹美喜

3. 発起人代表挨拶

第1回開催の広島での未来塾から数えて今回は7回目となる「きらめき未来塾 2011」は8月1日～5日までの4泊5日の日程で青い海、青い空、山の緑の美しい小豆島の国民宿舎で開催しました。

今回は「きらめき未来塾 2011」の開塾に先立ち、「次世代を担う青少年の育成」と題する記念パネルディスカッションを、オリーブ公園内サンオリーブで、聴衆約450人を集めて開催しました。コーディネーターとして、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏、パネラーとしてアテネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督の柳本晶一氏、北京オリンピック400mリレー銅メダリストの朝原宣治氏、(株)ロッテ顧問の濱本英輔氏他、土庄町長様、小豆島町長様、香川県教育委員会 教育長様を迎えて行いました。

「未来塾 2011」については、日本を支えるリーダーを育てるという開催趣意に沿い、各界で第一人者として活躍されている方々を講師として招聘し、熱心に講義をして頂きました。

各講義の後は、講師から出された課題でディスカッションを実施し、自分の意見をまとめて簡潔に表現する、相手の意見をよく聞き論点をまとめる等の訓練を実施しました。

今回の未来塾では、東日本大震災で被災した宮城県登米市の高校生5名も参加しましたが当初の計画としては、近畿各府県、東京、広島の高中生に交じって一緒に講義を受けてもらうことでした。

しかし、3日目のチームミーティングの時間に東日本大震災の体験談等をよければ発表していただきたいとの提案に積極的に応じていただきました。まず、引率の登米市役所の方にパワーポイントを使って、被災状況を詳しく説明していただいた後、5名に発表していただきました。塾生の中には、父親が未だ行方不明の塾生もおられました。各々被災した生々しい状況や、この艱難辛苦に負けず、今自分にできることを考え、ボランティア活動をしたこと、そして将来は復旧復興のための、更にはより良い日本にするために頑張りたいと即興的でしたが力強い発言があり、会場にいた塾生はもちろんサポーター、スタッフ、役員等全員が、目頭が熱くなるのを覚えました。

5日間のカリキュラムを通じ、被災体験の発表等、思い出したくない、つらい経験の発表に、他の塾生やスタッフ等に深い感動を与えたことはカリキュラム策定時の想定外のことでありましたが、未来塾の設立趣旨、基本理念の具現でもあり、大きな収穫となりました。

4日目のキャンプファイヤーは、レクリーダーの素晴らしい技量とリーダーシップで、暗くなった広場の中央で、燃える火を中心に、笑いと歓声が山に海に広がり、大変盛り上がりしました。

とりわけ「きらめき未来塾 2011」のために作詞、作曲された「きらめき未来塾賛歌」を合唱しましたが、小豆島での開催、共に喜ぶ青春の出会いと別れ等、塾生にとって胸にジンとくるものであったかと思われず。

最後になりました。素晴らしい自然環境の中で楽しく、有意義な塾を開催できましたことは、講師の先生方、ご協賛賜りました多くの法人・個人の皆様のお陰です。そのご厚志に深く感謝申し上げます。

また小豆島開催ということで香川県、小豆島町、土庄町の皆様に大変お世話、ご協力賜りました。

そして、地元企業である(株)ゼロム様には物心共に、絶大なご支援を賜りました。期間中、塾生をサポートしていただいた社会人、大学生15名の皆様、本当にありがとうございました。

第7回きらめき未来塾 2011に関しては、産経新聞、地元の新聞等々、多くのメディアに取り上げられましたように、多方面から高い評価をいただきました。

来年は、さらに拡充発展させ、認定NPO法人の名に恥じないよう努力する次第です。引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

認定NPO法人きらめき未来塾
発起人代表 大石正守

4. 概要

(1) 開催日程 2011年8月1日(月)～8月5日(金) 4泊5日

(2) 開催施設 小豆島ふるさと村



〒761-4304

香川県小豆郡小豆島町室生 2084-1

TEL : 0879-75-2266 FAX : 0879-75-2244

小豆島 土庄港へのアクセス

(1) 高松港より高速艇で30分 (JR高松駅より高松港まで徒歩5分)

(2) 新岡山港よりフェリーで70分 (JR岡山駅より新岡山港まで車にて30分)

※土庄港より、ふるさと村までバスで約20分



(3) 対象 高校生

大阪府 13名 兵庫県 15名 京都府 8名 東京都 4名

千葉県 2名 宮城県 5名 香川県 7名 広島県 11名 合計 65名

(4) カリキュラム

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を担い支えるリーダーを養成すべく、カリキュラムを編成しています。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける心強き人
2. 思いやりを持ち、共生できる心清き人
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人
4. 世界中の人とコミュニケーションできる心広き人
5. 強い責任感と行動力のある心熱き人

講 義	法曹、医療、スポーツ、芸術、様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ、一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英 語	国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、外国人講師の話す「生の英語」を聴くことで、英語への興味や英語力向上への意欲を持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	「チーム旗作り」や「キャンプファイヤーの出し物を考える」等、チームで協力し、1つのものをつくるという課題に取り組み、チーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともにリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音 楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話かけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
野外学習	開催地の文化施設等の見学や、自然の中で活動を行うことによって、豊かな感受性と、自ら考え学ぶ力を身につける。また、集団の中でリーダーとして必要な自主・自立の精神、行動力を養う。今回は、朗読を聞いた小説「二十四の瞳」の舞台となった岬の分教場の見学、小豆島を代表する産業である醤油の歴史館の見学、寒霞溪登山を行った。
発 表 会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

※ 塾生は8人程度に組分けして、チームでの活動を基本とする。

(5) サポーターについて

塾生の学習や合宿生活は、若手社会人や大学生からなるサポーターがフォローを行い、身近な先輩として、塾生が夢を持ち目標をつくるためのアドバイスをを行う。今年、社会人9名、大学生6名に協力して頂いた。

【サポーターの役割】

- ① 塾生の学習のサポート
日替わりで1つのチームを担当し、学習やチームミーティングのサポートを行う。
- ② 運営のサポート
カリキュラムを円滑に進めるため、講義の準備等を行う。
また、司会や、講師のインタビュー等も担当する。
- ③ 音楽、レクリエーション指導
それぞれ専門分野のサポーターが、朝の体操やキャンプファイヤー時のレクリエーションの企画、進行、合唱の指導等を行う。

5. 塾生の所属高校

〈大阪府〉

大阪府立生野高等学校
大阪府立茨木高等学校
大阪府立佐野高等学校
大阪府立東百舌鳥高等学校
大阪府立牧野高等学校
私立関西学院千里国際高等部

〈兵庫県〉

兵庫県立芦屋高等学校
兵庫県立伊丹西高等学校
兵庫県立柏原高等学校
兵庫県立香寺高等学校
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校
兵庫県立太子高等学校
兵庫県立播磨農業高等学校
兵庫県立姫路西高等学校
兵庫県立兵庫高等学校
兵庫県立八鹿高等学校

〈京都府〉

京都府立城南菱創高等学校
京都府立西舞鶴高等学校
京都府立福知山高等学校
私立京都学園高等学校
私立京都両洋高等学校

〈宮城県〉

宮城県佐沼高等学校
宮城県志津川高等学校

〈東京都〉

私立淑徳高等学校
私立立教池袋高等学校

〈千葉県〉

私立千葉商科大学付属高等学校

〈香川県〉

香川県立小豆島高等学校
香川県立土庄高等学校
私立香川誠陵高等学校

〈広島県〉

広島県立庄原実業高等学校
呉市立呉高等学校
私立修道高等学校
私立比治山女子高等学校

〈計 33校〉

7. 講師紹介

<p>おたけよしき 大竹美喜</p>	<p>広島県庄原市生まれ。広島農業短期大学(現・県立広島大学)卒業。韓国大邱韓医大学名誉保健学博士授位。1974年11月アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)を日本に創業。副社長、社長、会長を経て、2003年 創業者・最高顧問に就任し現在に至る。日本で初めて「がん保険」でスタートした同社を、国内最大級の外資系生保に成長させた。本業のかたわら、教育面では多数の大学で理事等を務め若者の人材育成に注力。国民の豊かな生活に向けてさまざまな提言を行うとともに、ニュービジネスの育成にも尽力している。</p>
<p>よしざわ たけし 吉澤 健</p>	<p>滋賀県大津市生まれ。1962年 滋賀県立膳所高校卒業。1966年 東京大学法学部を卒業し、同年4月 旧自治省入省。1977年 自治省官房文書広報課課長補佐、1984年 大阪府財政課長。その後教育次長、総務部長、副知事、2001年 四国大学経営情報学部教授。2009年より同大学講師。</p>
<p>まえだ よしあき 前田嘉昭</p>	<p>大阪市生まれ。東京教育大学卒業。大阪府高等学校教諭、大阪府立阿倍野高校校長を務め退職。大阪教育大学等非常勤講師・(財)日本ラグビーフットボール協会理事・(財)大阪府レクリエーション協会理事・生涯スポーツ社会づくりの推進を目標にボランティア活動をしている。</p>
<p>おだ よしゆき 織田善行</p>	<p>広島県尾道市生まれ。広島大学附属福山高校卒業、東京大学文学部社会学科卒業。明治安田生命入社後、AFLACに転職。取締役人事部長、常務取締役を歴任。TPIジャパン社長。現在、アドベンチャーコーチング(株)社長。</p>
<p>やまだ しげよし 山田茂善</p>	<p>同志社大学経済学部卒業。昭和63年より、太陽監査法人大阪事務所入所。平成4年に代表社員に就任、平成19年から大阪事務所長に就任。主な社会的活動として、北京大学北東アジア研究センター理事、関西大学大学院会計研究科非常勤講師、神戸ファッションマート ベンチャービレッジ選考委員などを務める。</p>
<p>やなぎもと しょういち 柳本晶一</p>	<p>大阪市生まれ。現役時代のポジションはセッター。2003年ワールドカップ・2004年アテネオリンピック・2008年北京オリンピックでは全日本女子バレーボールチームの監督を務める。現在は、きらめき未来塾副理事長、アスリートネットワーク理事長、芦屋大学特任教授</p>
<p>あきはらの ぶはる 朝原宣治</p>	<p>兵庫県生まれ。夢野台高校・同志社大学卒業、現在、大阪ガス株式会社人事部に在籍。アスリートネットワーク副理事長。大学3年生の国体100mで10秒19の日本記録樹立。その加速力から「和製カール・ルイス」と呼ばれた。2008年には自身4度目となる北京オリンピックに出場し、400mリレーでは、悲願の銅メダル獲得。同年9月競技生活引退。</p>
<p>さかもと たつ 坂本 達</p>	<p>東京都生まれ。現在、(株)ミキハウス人事部勤務。1995年9月～1999年末までの4年3ヶ月間、有給休暇で自転車世界一周、2002年自転車で日本を縦断する「夢の架け橋プロジェクト」で86会場を回り講演、「東南アジア青年の船」(第31回)に、ナショナルリーダーとして参加。現在は勤務の傍ら全国で講演活動を続け、著書の印税でお世話になったギニアの村で奨学金制度を設立。ブータン王国では幼稚園・小学校を支援中。</p>
<p>Paul McCarthy マッカーシー</p>	<p>駿河台大学教授。1966年にミネソタ大学卒業(首席)学士号取得(英文学及び日本文学)、1969年にハーバード大学修士号(極東言語)1975年にハーバード大学博士号(東アジア言語文化)を取得。カンザス大学日本文学講師、ミネソタ大学日本語日本文学日本宗教学助教授、フルブライト研究奨励金特別研究員(日本研究)、立教大学比較文学助教授、高麗大学フルブライト研究講義奨励金特別研究員を経て、1987年から、駿河台大学英語・比較文学教授。</p>
<p>りん せいじ 林 青司</p>	<p>1981年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、1984年 米国ブルックヘブン国立研究所研究員、1987年 高エネルギー物理学研究所(KEK)助手(1990年ヨーロッパ原子核研究センター(CERN)研究員)、1996年より神戸大学理学部教授。</p>
<p>すみやま よしのぶ 炭山嘉伸</p>	<p>香川県小豆島生まれ。明治大学法学部に入学するが途中で医師を志し、東邦大学医学部に入学。1970年に東邦大学医学部を卒業。1981年から1983年、ハワイ大学・クィーンズメディカルセンター、スタンフォード大学・メディカルセンター、メイヨークリニックへ留学。1987年に東邦大学医学部外科学第三講座教授に就任。医学部副医学部長、東邦大学医療センター大橋病院病院長を経て、2009年に学校法人東邦大学理事長に就任。</p>
<p>しもがま まき 下垣真希</p>	<p>島根県浜田市生まれ。愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツに留学。ドイツ国家音楽教授資格を取得し、ケルン国立音楽大学を卒業。冷戦時代からベルリンの壁崩壊までの歴史的な大転換期にドイツ国際ラジオ局でDJを務める。帰国後、国内外のオーケストラと競演する他、ひとりオペラ「女はすてき」を全国で公演。2000年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万博閉会式で独唱。近年は、日本の美しさや命と平和の尊さを伝えるメッセージ性の高いコンサートや、生演奏を取り入れた講演活動を全国で展開。現在、名城大学大学院で多文化共生論、同大学でドイツ語の教鞭をとる。</p>
<p>あさいふみよし 浅井文義</p>	<p>大阪府立阿倍野高等学校卒業。1967年 故親世寿夫師の内弟子に入る。1974年に独立を許される。2012年親世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。現在、公益法人能楽協会理事、社団法人鉄仙会理事。</p>
<p>くろいわ ゆうじ 黒岩祐治</p>	<p>神戸市出身。現神奈川知事。元フジテレビキャスター、元国際医療福祉大学大学院教授、元早稲田大学大学院講師。1980年早稲田大学政経学部卒業、フジテレビジョン入社。報道記者、番組ディレクターを経て「FNN スーパータイム」「(新)報道2001」のキャスターを1年半務め、2009年9月末退社。2年間のワシントン駐在も経験。自ら企画・取材・編集まで手がけた救急医療キャンペーンが救急救命士誕生に結びつき、放送文化基金賞、民間放送連盟賞を受賞。ミュージカル「葉っぱのフレディ」のプロデューサーも務める。</p>

8. 2011 きらめき未来塾 講師インタビュー

大竹美喜 講師

私たちの意図するところは、皆さんでこれからの生きる道、座標軸を見つけていただくことだったのですが、いかがでしょうか。
それぞれの皆さんにおかれましては、自分の座標軸をここでしっかり確認できたことと存じます。



これからの社会は不安定、不確実な困難な時代になっていくと思います。多難な時代であるかと思えます。

ですから、自分の軸をしっかり見つめて、そして自分の夢を実現していただきたいと思います。
今日の思い出は生涯の思い出として大切にさせていただければ、主催者として大変うれしく思います。皆さんにおかれましては、長い道のりがまっているかと存じますが、半歩、一歩、着実に歩んでいただけることを心から念じております。

織田善行 講師

Q. 「夢」を持つことの意味

A. 学生たちは、何故「夢」を持たなければならないのか理解できていない。大学に関係していると、大学の先生方が何で苦勞しているかという、学生から「私は何をしたらいいのか」「どんな夢を持ったらいいのか」という相談をしてくる。これはどう考えてもおかしいことである。
お年寄りが老後に夢を持たない人が多いが、日本の若者が夢を持っていないことは日本にとって悲劇である。それは「夢」ということについて、大人が教えていないせいでもある。そこで私は夢を語っている。



山田茂善 講師

Q. 先生は、いろいろな会社のリーダーの方々を見てこられたと思いますが、組織を担うリーダーとはどのような人間であるべきだと思われませんか？

A. 多種多様な価値観があり、その上にあふれんばかりの情報がある。そんな中で自分を見失わないようにするためには、きちっとした物差しなり座標軸があって、自分の価値観がどうなのかということ、ちゃんとまとめて説明できることが大事であり、あふれる情報の中で取捨選択が出来なくてはならない。それもタイムリーに短い時間内に出来なければならない。時間は有限であることを理解して有限の時間を大事に使うことの重要性を知って欲しいと思います。



柳本晶一 講師

Q：柳本さんが、いろいろな経験から人間力を鍛えていくことが大切だとおっしゃっているのをよく感じられました。学生へ、こういう体験をして欲しいというメッセージ、あるいは、講義の締めくくりという点からでもいいので、学生にメッセージをお願いします。

A.：リーダーだけに限らず、人に信頼されるというのは何かというのは思いやりのある人間にならなければならないということです。そういう意味では、常に日常生活で行われている事でも、人に対しての奉仕とか、思いやって手を差し伸べるとか、そういう人は上手くいく為にどうするのが一番いいのかという判断の出来る、そういう意味での思いやりを持っていなければ、どんな世界でもつまづく事が多いだろうし、逆にリーダーになろうと思うのであれば、そういうものは持っていなければならない。成功しているリーダーはそういうものを持っていますからね。自分のためでなく人のために何かをやる、それが人のためになっていく。大きな器の人間になる、そのためには基本は思いやりやなあと思いますね。



朝原宣治 講師 & 荒川大輔 講師

Q. 陸上競技選手生活の中で自分なりの目標の立て方、こういう風な目標を立てることが高みに登ることにつながるというのがご自身の中であれば、ぜひ高校生のために教えていただけたらと思います。

A. (朝原)：まずは自分のレベルで目標にできる近い目標を設定して、自分の状況が分からないと、目標に向かっていく方向が分からないので、いくらデカイ夢持っていても、はるかにそこから離れていたら自分はいったい何をしたらいいのかということになるので、まずは自分の行く方向がしっかりと分かる目標を立てるのが重要なと思います。



A. (荒川)：僕が中学とか高校で日本一とか狙える位置はあまり考えてなかったんですね。自分の自己ベストをずっと更新していこうと考えてました。その結果、大学一年生のときに世界ジュニアに選ばれたりとか、大学の時にはユニバーシアードというのに選ばれたりとかだったのでそこを目標にして、大会を目標にということではなく、自己ベストを目標にということで高校生の間は過ごしていたと思います。

坂本 達 講師

Q. 世界を回られていろいろな世界を見て、民族や部族の方々に会って来られたと思いますが、自分自身を最初に理解してもらうキーポイントとは何でしょうか？

A. まず、「挨拶」でした。国や部族によって違うのでそれを肌で感じながら次の出方を考えましたね。自己紹介から入ったほうがいいのか、村長に挨拶をしたほうがいいのか、空気を読んで状況を考えて、とにかく笑顔で挨拶をしに行って「自分は敵じゃないよ」と挨拶をしてから、自分の自己紹介をしてから、相手に興味を持って、いろいろ村のことを聞くことから始めるように心がけていましたね。



Q. 塾生メッセージをお願いします。

A. 目標を持って、目標が途中で変わっても方向修正をしながらチャレンジし続けること。うまくいかなくてもいいところを見続けていれば、運も縁も応援してくれてると思います。目標を持って回りの人たちへの感謝を忘れずに、そして、自分の役割は何なんだろうとか考えていくことが大事だと思います。

Paul McCarthy 講師

Q. 英語を簡単に、気軽に話す機会を見つける鍵は何ですか？

A. 授業を真剣に受けるべきです。しっかりと予習、準備をし、授業をしっかり聞き、後で復習することが大切です。私たちは英語で” Repetition is the mother of learning” と言います。

「繰り返しは学びの母」ですかね。繰り返しは学習を助けてくれるということです。あとは、海外に行って住んでみることです。海外に行って3ヶ月間、6ヶ月間、1年間住めば、かなりの成果を得ることが出来ると思います。



Q. 塾生へのメッセージをお願いします。

A. もう一度、きらめき未来塾のテキストに書いたこと、また講義でも言ったことを繰り返します。” Follow your bliss”. 何かあなたがとても好きなもの、あなたを幸せにさせるもの、そしてあなたにとっても世界にとっても良いものを見つけてください。そしてそれを続けてください。あなたの元気、気力を使ってそれを追ってください。あなたの人生を意味のあるものにしてください。

林 青司 講師

Q. 講義を受けている塾生達とおなじ位の時に、現在の姿を思い描いていましたか？

A. ある意味では近いと思います。そういうことができたらいいなという憧れは持っていました。例えば、アインシュタインの相対性理論の解説の一般書を読んで、分からなかったけど面白いと思っていました。でも、興味はありましたが、実際に研究したり、生徒に教える立場になれるかは、その当時は自信がなかったです。



Q. 塾生達は、これから色々な経験をして道を決めて行くと思うのですが、林講師が物理学以外に興味あるものや経験したことはありますか？

A. 音楽ですね。クラシック音楽がとても好きです。物理学者より音楽家になれたら良かったと思うことがあるくらい。音楽という全然違うような分野に興味があり、時々思うのですが、非常に似ている所がある気がします。色々な演奏家の演奏を聴くのですが、聴いてとても感動する時、2つ要素がある。ひとつは、表現する音楽があるかどうかです。でもやはり、表現するものがあったても具現化するというか、人に伝えるテクニックがないと聴くに耐えないものになる。物理も、論文を書く時など、似たようなことがある気がします。

炭山嘉伸 講師

Q. ターニングポイントに大切な人に出会って幸せな人生を送っているとっておられました、大切な人に出会うため、心掛けることはなんですか。

A. 難しい質問ですね。講義でも言いましたが、人から裏切られたり、嘘をつかれた、そういうことは人間歩んでいけば誰でもあることです。全ての人間が、自分にとってはいい人ばかりではない。その取捨選択は自分自身しか判断しようがないと思います。僕が心掛けているのは、全て同じように受け入れるということです。自分のキャパシティを常に広げていきたい。



Q. 出会いを無駄にしないために、意識していることは何でしょうか。

A. そういうことをあまり意識したことがないかもしれませんが…人間って弱い生き物だと思います。社会で生きていくには、常に人からの評価はとても大切です。人から感謝されたり、人のために、社会のために役立っているということ意識できるかどうかはとても大きなことだと思っています。相手からの、批判を含め評価はどうあるのか、それは自分の中でいつも大切にしている、出会いを大切にするためのことだと思っています。無駄な出会いは一つもないと思います。

下垣真希 講師

Q. 下垣講師は塾生と同じ高校生の頃、夢に向かってどのような行動をされておりましたか？

A. 行き当たりばったりでした。最初は、母の望みでピアノを始めたんです。でも高校2年の時、勇気をだしてピアノをやめたいと言って音楽と離れた時期があるんです。すごく虚しくてしょうがなかったんです。音楽はいかに素晴らしいかを再認識できた時期でもあります。

Q. 歌が人に与える影響とは？

A. 歌うことって人を勇気づけるし、一緒に歌うと頑張れるような気分になってきます。災害にあった時に、歌が人々を助けることはよくあることなんです。だから皆にはどんどん歌ってほしいです。



浅井文義 講師

Q. 塾生へのメッセージをお願いします。

A. 今の社会は難しい時期です。だからこそ余計に早く自分の目標を作って邁進していくことが大切です。若い時は何回恥をかいてもいい。恥を恐れると物事ができなくなる。失敗を重ねていくことによって「初心忘れるべからず」じゃないですけど、失敗したことを忘れずに物事につき進んでいく。それができるのが唯一若い世代だから。



黒岩祐治 講師

Q. 人との出会いを創る工夫とは？

A. 親から教えられたことは、損得勘定なしに人とつきあえということ。そういう付き合い方をするなといわれた。これは非常にいい教えだったと思っている。この友達と思ったら大事にしようという気持ちになればいい。たとえその友達が自分を裏切っても、裏切らなければならない理由があるんだっていうくらい惚れて付き合い合うこと。



Q. メッセージ力とは？

A. 人間同士のコミュニケーションの中でもメッセージ力が大切だと思う。とかく自分よがりになってしまい自分の発想で考え、自分の言葉でしゃべっているだけで、実は思いは届いていないことが沢山ある。普段から意識をもってメッセージ力を高めること。そして言葉を大事にすることがとても大切。

9. 活動報告

(1) 講義について

医療・スポーツ・芸術・メディア等、いろいろな分野から講師を招き、専門知識、体験談などを通して、自分の夢を持つことの大切さを話していただいた。参加塾生の多くは、普段の高校生活だけでは接することの出来ない分野で活躍されている講師の方々の話に耳を傾け、質問を通して直接会話することが出来るこのような機会を十分に生かし楽しんでいる様子が伺えた。専門的すぎて理解するのが難しかった講義、人との繋がりを大切にすることの重要性、何度失敗してもそこから成長していけばいいのだというチャレンジ精神の大切さ等、どの講義からも何か感じ、自分の夢に真剣に向き合うため大事な一歩をしっかりと踏み出せるきっかけになったのではないかなと思う。

前年度から続いて、英語での講義には駿河台大学教授のネイティブの方にお越しいただいた。ここでも、異文化とのふれあいについて、人と人との出会いのきっかけについて、ゆっくりと丁寧な英語でお話いただいた。

外国語に興味を持つだけでなく、自分の生まれ育った国への関心を深め、学ぶきっかけになっていくのではないだろうか。

昨年度から実施している「OB とのディスカッション」は概ね好評であった。本年度は、慣れが出てきたせいもあるのだろうか、内容がまとまりきれていない感じが見受けられたり、全体として話題が同じものに終始した印象が残った。今後は、パネラーの語る内容や、進行方法については新しいアイデアを取り入れ、常に新鮮な内容になるように工夫をこらすことが課題となるだろう。塾生達にとっては、身近な先輩から進学や大学生活についての話や、自分の抱く疑問について答えをもらえることはとても貴重な機会である。内容の充実したしっかりとしたものにしていきたい。

本年度は、サポーターの役割を今までとは違う輪番制にした。その結果、塾生主導で絆が強くなり塾生の自主的な動きへとつながった。その反面、サポーターと塾生のかかわる時間が少なくなり、もっと塾生とかかわりたかったという声もあったので、その辺りを改善するための策が必要となるであろう。



今年は東北の大震災の被災地の高校から5名の参加があった。当初は、近畿各府県・東京・広島の塾生と仲良く学び、コミュニケーションをしてもらえればと考えるにとどまっていたが、課題発表の時間に震災の体験の話をしてもらえないだろうかとのお願いをした。つらい経験を人前で話すことでさらにつらい思いをしてしまうのではないだろうかという心配もあったが、彼らからは、「他の高校生たちに自分たちの体験を知ってもらいたい」という言葉をもらい積極的に応じていただき実現することができた。同じ年頃の高校生から語られる言葉は参加塾生達にどのように響いたのだろうか。命の大切さ、絆の大切さを再確認できただろうか。

四泊五日を共に過ごし、勉強やレクリエーションやディスカッションを通じて、色々な人達と関わることは、参加者全員がなにかしら影響を受けたり与えたり出来る。そんな体験の一つひとつを、その場限りにせず、これからの自分の人生に生かして行って欲しい。目標を決めて自分の人生を一生懸命に生きること、他人を思いやること、感謝を忘れないこと、どれも当たり前のことのようにだが、実行に移すのは思ったよりも簡単ではない。もちろん、これは高校生である塾生だけでなく、サポーターやスタッフにとっても同様である。

事務局は回数ごとに次年度への改善点を話し合い、より良い内容にしようと努力を重ねてきた。その結果、開塾中に改善出来る場合もあれば、さらに課題を課されることもある。回数を重ねることにより新鮮さが失われるが、その反面手際よくこなせるようになる。そういった意味でも、事務処理がスムーズにこなせるようになった反面、マンネリ化し、新鮮さを失うことのないようにしたい。今一度未来塾の目的や趣旨を再確認し、気持ちを新たに検討し続けていかなくてはならない。

(2) チームミーティングについて

① チーム編成 (8/1 フェリー)

今回は小豆島開催ということで、岡山港から 1 時間程フェリーに乗るのだが、その時間が最初のチームミーティングとなった。

新岡山港で昼食をとった後、サポーターの呼びかけで集合し、チームに分かれてフェリーに乗り込む。初対面同士で、1 時間の間がもつだろうか心配していたが、バスレクも盛り上がり、塾生同士のコミュニケーションも良い雰囲気で行われていたため、ほとんどのチームがすぐに打ち解けていたようだった。皆で甲板に出たり、円になって座れる場所を探して移動しているチームも見られた。

② チームリーダー、チーム名決め (8/1 オリエンテーション内)

研修会場の小豆島ふるさと村に到着した後、現地集合の地元小豆島の高校からの参加者と合流し、チーム全員が揃った。入塾式を終えて、夕食後のオリエンテーションの時間、講義を受ける際や合宿生活の注意事項を説明した後、これから 5 日間活動していくためチームリーダーとチーム名を決めてもらった。チーム名は、こちらが指定した A~G のアルファベットを組み込むことが条件となっている。

このチーム名を決めることは毎年恒例となっているのだが、その年の流行りものや開催地の名が入れられたりしていて、同じ名前になったことがない。しかし年々凝ったかっこいいチーム名になってきている。そして、特に指示している訳ではないのだが、チーム名には自分達の目標や未来塾にかける思いがこめられていたので、今年は講義の始まる日のミーティングで発表してもらった。

自分達の目標や思いが込められたチーム名を皆の前で発表しスタートを切ることで、チームの団結力やモチベーションも高まったと思われる。



③ チーム旗作り（8/2朝、8/3朝、8/4朝のチームミーティング）



朝食後の30分間、チームミーティングの時間を設けた。内容は主に、チーム旗作り。それぞれのチーム名が書かれたチーム旗を作成する。8/4の卒塾式に間に合うよう、3日間の朝のミーティング時間で作ってもらう。

材料は、90×200cmの横長の布に、布用クレヨンとアクリル絵具を使って描く。課題として、版画の技法の1つである「ステンシル」で模様付けしてもらう。

ステンシルは「孔版画」ともいい、切り抜いた紙の上から絵具をのせ、別の紙に形を転写する技法である。朝の時間は短く、丁寧に説明している時間はないので、プリントを配付し簡単に方法や道具について話し、出来上がり見本を見せ、すぐに取り掛かってもらった。

昨年も同じように行ったのだが、今年は筆を配付しなかった。去年は絵具を混ぜる際に使用することもあると思い渡していたのだが、そうすると筆に頼ってしまい、それだけで仕上げてしまうチームがあった。ステンシルにしたのは、ハンコのように型があれば、絵が苦手な生徒でも模様をつけることができる、そして、紙を切るなど作業工程を増やすことで、チーム全員が参加しやすいようにするためである。

そんな課題設定の目的を理解してくれているのかどうかはわからないが、進め方は様々であるがどのチームも全員が参加して取り組んでいた。皆が1つずつ型を作っていたチーム、大きいAの字を切り抜いて、皆で必死にスポンジで色をのせていたチームがとても印象に残っている。

進行具合が少し心配だったチームもあったが、全チームが3日目の朝で、ステンシルでカラフルな模様のついた、きれいな旗を完成させることができた。



④ 創作ボディパーカッション「レインストーム」（8/2チームミーティング）

音楽担当サポーター2名の指導で、例年行っている“創作ボディパーカッション”にチームごとに取り組む。先に“レインストーム”という既成の曲を使って説明を行う。この曲は、楽譜が読めなくても、楽器を演奏できなくても誰もが参加できる曲で、この曲独自の楽譜に従って“風”“雨”“雷”などの音をボディパーカッションで表現し、一つのストーリーを完成させる。

アイコンタクトや呼吸を合わせることによってチームで一つのストーリーを共有し、完成させるのでチームの交流を深めるのに有効な曲である。

まず、各チームのサポーターに協力していただき模擬演奏をする。次に塾生全員で一度演奏する。次に、この“レインストーム”を例にボディパーカッションや身の回りの物から出る音を使って、チームごとに新たなストーリーと独自の楽譜を創作してもらう。1時間程度の創作活動をした後、発表会を行う。

すぐに様々な音の出し方を模索し始めたチーム、題材決めにこだわっていたチーム、楽譜を書く人と演奏を練習する人で役割分担をしているチームなど、それぞれ進め方は違うが、どの塾生も

積極的に参加していた。今年は十分な時間を取ることができたので、塾生同士のコミュニケーションも深まり充実した時間となったようだった。

できあがった作品も力作ぞろいで、現代音楽を思い起こさせるようなリズムを表現した「工場」、合唱曲である「風になりたい」のサンバのリズムを使って、そこに音を加えていった「ジャングル」、より本格的に花火の音を表現した「夏」など、使える限りの音素材とアイデアが詰まっていた。優秀賞に選ばれたチームはやはり、チームの結束が固まるのが早かったように感じる。

塾生の感想では「音楽が嫌いだったけど、身近にある物から音を探したり、とても楽しかった」、「チームの皆で初めて協力して作り上げたのでとても心に残った」、「入賞できなかったけどチームの仲が深まったので嬉しい」という意見があった。

チーム旗作りもそうだが、今年の塾生は、チームで協力して1つの物をつくるという課題に、特に楽しんで取り組んでいるように感じた。



⑤ チーム反省会・発表会（8/4 チームミーティング）

全ての講義が終了して、チームで反省会を行う。反省会の内容は、個人で振り返りシートを記入し、1日目の織田講師の講義で学んだ、自分の夢を実現するための具体的な目標を宣言する「アフメーション」を作成する。それから、チーム内でアフメーションと、自分が未来塾で何を学んだか、精神的にどう成長したかを発表しあい、卒塾式の全体発表会の代表者を選抜する。

チームごとに、サポーターの進行で行うのだが、午前中に講義が2つ入っており例年より時間が短く、時間配分がうまくできていないチームが多かったようだ。アフメーションについても、初日に織田講師から研修を受けてはいるが、初参加のサポーターには情報不足だったようで、指導方法に迷っている様子も見受けられた。

前日の夜のサポーター打合せで、進め方について詳しく説明するようにした方が良かったと反省している。また、塾生の指導やチームミーティング全般において、ベテランサポーターが、初参加のサポーターをリードし、協力して進めていくことが重要かと思う。

塾生の記入する振り返りシートについては、形式を変えずに使用しているのだが、分量が多いようなので、全員が時間内にしっかりと取り組めるように見直しが必要であるように感じた。昨年から、1日の終わりに感想等を書いてもらう「夜の課題」も取り入れているので、それと合わせて検討し、塾生が未来塾のカリキュラムの中味のひとつひとつを、より深く吸収していけるようにしていきたい。また、いつも課題はミーティング時間の直前に発表するので、初日のオリエンテーションで、5日間のチームミーティングの予定を伝えておいた方が良かったと思った。

卒塾式では、チーム旗を掲げ、チームごとに壇上にあがり、チーム代表者3人が発表をする。チーム全員の団結力と、塾生一人ひとりが目標に向かう強い意志を示す発表で、4泊5日という短い合宿ではあるが、成長した様子を見ることができた。

この卒塾式をスタートにして、夢に向かい、成長をし続けてもらいたい。



(3) パネルディスカッションについて

きらめき未来塾の講師陣は、各々の分野の第一線で活躍している方々である。講義を聞いて、塾生達も「自分もそのようになりたい」と大きな目標を抱くのだろうと思うが、高校生である塾生にとっては、少し遠い未来である。塾生達に共通して、現実感を持って興味のあることと言えばやはり、「大学の選び方」や「大学受験」そして「大学生活」である。

きらめき未来塾には、サポーターとして大学生に参加してもらっている。塾生達にとって、身内以外の大学生から話を聞けるのは貴重な機会だろうと思い、2年前に大学生サポーターとの対話を取り入れた。チームミーティング時に担当サポーターが話をするという形をとったのだが、チームごとに行くことはいくらか問題点があげられたので、去年は、サポーター数名が前に出て、パネルディスカッションという形で行った。そして、パネルディスカッションが、塾生からは「為になった」「興味深かった」との声が多く、サポーターにも好評だったため、カリキュラムを考える際、昨年より時間を多くとり、約2時間という時間を使って行うこととなった。

重要なのは、まず、パネリストの選定である。サポーターを選定する際には、パネルディスカッションのことを念頭に入れていた。大学生のサポーターにパネリストになってもらうのだが、同じ大学生でもバラエティーに富んだ人選を行いたい。

未来塾の卒塾生である大学生サポーター2名、2つ目の大学へ進学した大学生サポーター、そして、アメリカへ留学している大学生サポーター、4名のサポーターにお願いすることにした。

それから今年も、就職をしているが、税理士をめざして勉強している社会人サポーターにもパネリストになってもらうことにした。また専門学校卒ということで、去年のアンケートに、「専門学校の話も聞きたかった」という意見があったので、その点でも良いと思った。

打合せは、コーディネーターを務める事務局員を含めて、開塾前と、開塾中に1回ずつ行った。最初の打合せは、パネルディスカッションの趣旨を伝え、事務局がサポーターに話してほしい内容、またサポーター達が塾生に伝えたいこと等を聞き、テーマを複数設定し、各自で発表内要を考えてくることとした。2回目の打合せでは各自の内容から、テーマを大きくしぼり、構成やパネリストの発表順を決めた。



パネルディスカッション全体の時間は、1時間45分、前半はパネリストの発表で、後半は塾生からの質問を受ける。テーマは、「未来塾に参加して学んだこと」「大学の選択、入試について」「大学生活」「将来の選択」とし、時間が1時間程もあるので、最初のテーマ以外、全員が発表することにした。

この日の昼のカリキュラムは野外でのスポーツがあり、塾生はとても疲れていたことと思うが、全員しっかりと前を向いて聞いている様子だった。

塾生の感想からは、「貴重な話だった」、「有意義な時間だった」という意見が多く、また「進路を考える参考になった」、「真剣に考えようと思う」など、やはり年齢の近い先輩の話は、自分自身を見直すきっかけになったようだ。

また「受けようと思っている受験方式に詳しく知れた」「進みたい専攻について詳しく聞けた」「留学について聞いてよかった」そして「悩みや考え方が一緒に自信になった」等、パネリストそれぞれの話に対し、興味や共感をもって聞いていた。

それでもやはり、「自分と同じ進路の人がいなかった」という声もあった。塾生はこんなことに興味があるのではないか、こんなことを伝えたい等、全てこちらの考えで計画しているので、サポーターからの意見にもあったが、事前に塾生にアンケートをとるもの一案だろう。



塾生やサポーターからは、好評ではあったが、事務局としては、進行の仕方に見直す点がいくつかある。

まず、パネリストの発表時間がトータルで1時間ということで、長く話さないといけないというプレッシャーからか、話が伸びてしまうことが多かった。1つのテーマで、全員が順番に発表するという流れにしていたので、一人の発表時間が長くなると、一つのテーマが長引いてしまうことになる。発表者ごとに違うテーマを設定するか、一つのテーマの発表者の人数を絞るかして、テンポよく進むように工夫をしなければならない。

また、パネリスト一人ひとりが、自分は塾生に何を伝えたいか、塾生に役に立つ情報は何かを良く考え、そしてそれが分かりやすいように簡潔に話す必要がある。そして、サポーターは塾生と同じ立場ではなく、手本となり、アドバイスをする立場なので、「自分は、塾生から尊敬される先輩である」という自覚と自信を持って話してもらいたいと思う。

後半は、塾生からの質問タイムとしていたが、昨年より質問数が少なく、全体的に大人しいように感じた。やはり、話が長くなると、誰が何の話をしたかを整理できなくなったり、最初の話をおぼろげにしたりと、質問がしづらくなってしまったのかもしれない。パネリストのプロフィールやレジュメを用意することも考えた方が良かったと思う。

前回と今回は、全体で質問を受け、パネリストがステージ上で答えるという形をとっていたのだが、パネリストが塾生の中に入っていき、質問に答えたり、チームで塾生の夢や目標について話し合う時間



とした方が、より活発で有意義な時間になるのではないかと考えている。

このサポーターとのセッションの時間は、現役の大学生から話を聞くという塾生にとって貴重な機会である。パネリストだけでなく、塾生全員が活発に質問や意見を述べ、取り組める時間となるよう検討をしていきたい。

(4) レクリエーション・合唱について

レクリエーション担当：小松真之、長倉 愛、福井智恵子

音楽担当：高崎翔平、石松千咲

① バス内レクリエーション

研修会場までは、大阪、東京、広島の3箇所の集合場所から出発し、岡山駅で合流、そこから新岡山港へ向かいフェリーに乗るといった行程をとった。従って、大阪集合者はバス、東京と広島集合者は電車を使ってということになった。

大阪から岡山駅までは、3時間程あるので、きらめき未来塾の専務理事でもある前田嘉昭講師を中心に「アイスブレイキング」としてバス内レクリエーションと合唱を行った。

バスは2台で行くので、レクリエーション担当と音楽担当のサポーターがそれぞれ1・2人づつに分乗することとした。昨年は2台のバスで内容がかなり違ってしまったので、開塾前にレクと音楽の担当者同士がコミュニケーションをとる機会を設け、打合せをしっかりと行った。

最初は、音楽レクで自分のニックネームを4拍子の中でリズムをつけて言う自己紹介など個人でできるレク、そして少しずつ周りの友達と関わっていくレクを行った。また5日間過ごすフィールドを知るために小豆島クイズ、天体観測のための星空クイズも取り入れた。そして、4日目のキャンプファイヤーで歌う合唱の練習をする。

今年は新大阪からバスに乗る人数が少ないので、進行と盛り上がり不安がある中、バスレクを開始した。塾生も初対面同士で緊張している様子で、同じ学校から来ている生徒はまとまって座っているが、一人で離れて座っている生徒も見られた。

座席の間隔が広がってしまっていたので、個人や対リーダー相手のゲームはまだ進行しやすかったが、塾生同士のコミュニケーションを図り、アイスブレイクしていくようなゲームの進行は難しかった。しかし、ひとり一人の参加意欲は強くレクは盛り上がり、次第に雰囲気も和んで塾生同士打ち解けている様子だった。

合唱は、長い移動時間で、疲れの出るところに練習をしたが、よく知られている曲だったようで、大きな声で歌えている塾生が多かった。しかしバスの中での合唱練習は機材的にも空間的にも制限があり、今年は一人でキーボードを弾き、進行しなければならなかったので十分な音を塾生に提示するのが難しかった。

レクや音楽を交互にやっていたのだが、長時間の移動、塾生から「疲れた。」という声も聞かれ、また担当サポーターにも負担が少なくなかった。来年からはレク途中でも休憩をうまく取り入れる必要がある。

そして、他のサポーター達のフォローが最も重要ではないかと思う。



② 朝のレクリエーション

中3日間、朝に体操とレクリエーションを行う。塾生達は大きく遅刻することはなかったが、集合して、整列に時間がとられてしまう。このことは、朝以外の集合時でもよくあり、今まではあまりしてこなかったが、きびきびとした行動をとるように厳しい指導も必要かと思う。



3日間共通して、ストレッチから始め、一日の目覚めをすっきりさせるため、体を大きく動かすゲームと頭を働かせるゲームを行った。2人でジャンケンをし、負けた人が相手の命令をきくというレクでは、何度ジャンケンしても負けている塾生がいたり、何度も遠くまで走らされている塾生がいたりして、とても朝から盛り上がっていた。

レクの内容によって全体の隊形を変えていたのだが、チームが一致団結し全体で1つの円を作っていたレクなどは、全員の顔が見えるからか、その場にいる全員が笑顔で1つになって楽しい雰囲気になっていた。

レクリエーションの指導は、コミュニケーションを取りやすい状況を作ることが重要だと感じた。

朝から蝉も鳴き蒸し暑かったが、皆がレクに参加しようとする姿勢が強く感じられ、気持ち良く1日をスタートできた。



③ 合唱について

今回の選曲は「すてきな友達」と毎年恒例のボディパーカッションを用いた「風になりたい」。

「すてきな友達」は幼稚園の卒園式、小学校の卒業式等で歌われる曲で「人は一人では生きていけない、仲間がいれば、苦しいことも悲しいことも怖くない」という詩が歌われる。メッセージ性があり、未来塾の卒塾式後のキャンプファイヤーの後で歌うのにぴったりだと思い選曲した。メロディも簡単で、覚えやすいため、初日のバスから大きな声で歌っていた。

「風になりたい」は明るく、「生まれてきたことを幸せに感じる、かっこわるくたっていい、あなたと風になりたい」と歌う、常に前向きな気持ちの曲である。途中に入るサンバのリズムパーカッションは、音楽が心をつにする、という一体感を感じることができる。

「すてきな友達」がしっとりゆっくりの曲で「風になりたい」がアップテンポの曲なため、その対比があり、とてもよく歌っていた。

今回の合唱は、最初の練習から例年より声が出ていて、塾生達が仲良くなっていくほど、彼らの心からの声が出ていたように感じ、心に響く歌声だった。



④ バーベキュー、キャンプファイヤーについて

4日目、卒塾式を終えたら、お楽しみのバーベキューとキャンプファイヤーである。バーベキューは、夕食なのだが、皆で肉を焼いて食べるその行為自体がレクリエーションとなる。

バーベキューの座席は、今回、女子の塾生が例年より少なく、女子の人数が3人しかいないチームができてしまったことから、2チームが混ざり合ってテーブルを囲むようにした。そうはいつでも、同じチームで固まってしまうのではないかと思っていたのだが、今年は担当のサポーターを日替わりにしたこともあり、塾生達のチームを越えての交流が自然とできる体制になっていた。

また、途中でサプライズでチーム旗の「塾長お気に入り賞」を発表した所、とても盛り上がり、来年は5日間を通して全チームが賞をとれるように考えたいと思った。



キャンプファイヤーは、吉澤塾長と塾生代表の2名の点火から始まった。そして、きらめき未来塾2011のために作詞・作曲された「きらめき未来塾賛歌」が流れる。

プログラムはチームの出し物を中心に行う。スタートから皆とても声がかでいて、塾生たちがキャンプファイヤーを自ら盛り上げようとする姿勢がとても伝わってきた。

チームの出し物は、くじで何をやるかを決め、バーベキューが始まる前の少しの練習時間だったが、それぞれのチームカラーを出したものがしっかりと完成していて、他のチームの発表時も拍手や声援を送ったりと全員で楽しい雰囲気を作り盛り上がっていた。

今年は、3人のレク担当サポーターに1台ずつ、腰に付ける小型アンプがついたヘッドマイクを購入した。性能は悪くないのだが、広い場所ではやはり全員に声を届けるのが難しい。しかし、毎年マイクが全く使えないという状況だったので、小型アンプの導入は良かった。



キャンプファイヤーの最後を飾る合唱では、音楽担当サポーターの電子ピアノの伴奏に、他のサポーターがギター演奏で加わって音の拡がりがあり、皆で手拍子をする間奏では得意のダンスで盛り上げる塾生もいた。

塾生達の歌声も力強さ・結束力があり、その場にいた全員が一つの円になり、未来塾の締めくくりにふさわしい夜になった。

(5) 朗読 ～ 二十四の瞳

昭和3年4月4日、農山漁村の名が全部あてはまるような、瀬戸内海べりの一寒村へ、若い女の先生が赴任してきた……の一説で有名な壺井栄の小説「二十四の瞳」。

小豆島バス バスガイドのOGの方々に構成される、「二十四の瞳を愛する会」の皆さまにより朗読をしていただいた。

戦争を体験していない世代の者たちに、戦争の悲しさや残酷さを語りで伝える。役になりきった感情のこもった朗読に情景が目につかび、登場人物に自分の姿を重ねて涙を流す生徒も多くいた。



寄せられた感想文からは、語られた内容に感動し涙を流しただけでなく、戦争の悲惨さ、友達や家族を失ってしまう悲しさ、戦争によって残された傷は体だけでなく、心にも深く残るということ、いろいろなことを感じとれた様子が伺えた。朗読中に一緒に歌った歌にも感動を思えた塾生も多くいた。

本をまだ読んだことのない塾生からは、小説を読みたくなった、映画を見てみたくなったという感想もあり、朗読から強い感動を与えてもらったことが伺える。戦争を繰り返してはいけないという強いメッセージは塾生の心にしっかりと刻まれたようだ。

平和があたりまえのようにある日本、自分たちの置かれている状況に感謝しながら、しっかりと生きていかなければならないと思う。

(6) 星空観察について

カリキュラムと予定を変更して、2日目の夜に星空観察を行った。昨年の飛弾での星空がとても綺麗で、今年も都会から参加した塾生達に、星の美しさや自然の大切さを感じてもらいたいと思い、取り入れることにした。

実施した日は、少々雲がかかった空ではあったが、ボランティアで星の解説を行っている小豆島市役所職員の方が持ってきてくださった望遠鏡で土星を見ることもでき、チームでワイワイと星空を見上げ、楽しい夜になった。



反省点としては、小型のマイクしか用意していなく、解説が一部にしか聞こえなかったことである。星座早見盤等を用意して自分達で星を探せるようにすべきだった。

翌日の夜、星座について塾生から聞かれて、ちゃんと答えることができなかったので、事務局員としても次回は少し勉強しておこうと思う。

(7) 野外学習について

最終日に行う野外研修、塾生達はせっかく美しい海に囲まれた小豆島に来ているのだから、海に入りたいだろうとは思ったが、安全面を考慮すると、やはり島内見学ということになった。

見学のコースは、朗読を聞いた「二十四の瞳」の舞台となった岬の分教場、島の特産品の醤油の代表的なメーカーであるマルキン醤油の記念館を訪れた後、瀬戸内国立公園の寒霞渓を登山する。



岬の分教場やマルキン醤油記念館は、両方共、実際に学校として、醤油蔵として使われていた歴史のある建物である。そこで、開催地・小豆島の文化や産業について学ぶ。

寒霞渓では、自然に触れ感受性を養い、チームで助け合いながら頂上をめざすことによって、協調性と精神力を養うことを目的としている。

岬の分教場とマルキン記念館は、フェリーの時間や登山に要する時間を考え、短い見学時間になってしまったが、皆、興味深そうに楽しく見学をしていた。

メインとなる寒霞渓登山。寒霞渓は、200 万年の歳月が生み出した景勝地で、頂上に向かう遊歩道では、奇岩や四季折々の植物を見て楽しむことができ、野生の猿にも出会える。8 月という真夏に登山することになるので、暑さを心配していたのだが、運良くこの日だけ曇りとなった。おかげで熱中症の心配もあまりなく、体調不良などで何人かはロープウェイになったが、ほぼ全員が登りきることができた。どのチームもまとまってお互いに助け合いながら登り、予想していたより短時間で頂上に着いた。もう少し、景勝を楽しんでほしかったが、フェリーの時間を考えるとやむを得なかった。



頂上では、着替える部屋を確保していたのだが、着替えを用意していなく、食堂の冷房で汗が冷えて体調をくずす塾生もいた。山登りでは、汗の始末をすることは大事である。

食事をとり、記念撮影を行う。全員が清々しい顔をしていた。塾生の感想で「山登りというのは、5 日間の集大成として、とても良いと思った。」と書かれていた。

塾生達には、なぜ登山にしたのか、何を学んでほしいかという難しい話は全くしていない。しかし、自分達で、気づき学んでくれる。それこそ、野外学習の目的であると思う。



それにしても、事務局長が猿にお土産を奪われたというハプニングはあったが、怪我も事故もなく、野外学習を行うことが出来てよかった。マイクロバスを3台も出してくださり、多大なご協力を頂いた、小豆島ふるさと村の皆さんに心から御礼を申し上げたい。

(8) サポーターについて

きらめき未来塾では、塾生は 8~10 人のチームに分かれ、研修を受けたり、活動を行うこととしている。チームには、若手社会人や大学生などからなるサポーターがついて学習や生活面でのフォローを行う。また、サポーター達は、塾生達と年の近い身近な立場にいる人生の先輩というわけで、より親身に夢や目標についてのアドバイスもできる。

これまでは、サポーターは 2 人一組となって、全日程を通して 1 つのチームを担当していた。チームはサポーターを含め、1 つにまとめ、最終日には強い絆が生まれていた。それが未来塾の良い所であり、塾生達にとって最も思い出に残るところであったと思う。

第 1 回目の開催からその体制で行われていて、遠隔地での開催時から塾の期間が 1 日延びたこともあり、チームメンバーの絆はより深まっている様子だった。しかし、その半面、チーム単位で独立してしまう動きが見られ、違うチームの塾生同士や担当サポーター以外との交流がなくなっているように感じられた。折角、沢山の高校から生徒が集まるのでより多くの友達を作ってもらいたいし、色々なサポーターがいるので、全員と話をしてもらいたい。

そして、特に問題を感じていたのが「塾生の自主性」である。サポーターがいると、サポーターがチームのリーダーとなってしまふ。塾生でチームリーダーを決めるようにしていたが、過保護にしてしまふサポーターもいて、塾生達はどうしてもサポーターに頼ってしまう。リーダー育成としてのきらめき未来塾はこれで良いのだろうか疑問を持った。

そこで、今年は体制を変えてみようということになった。サポーターを日替わりにする。そして、混乱を招かず行うにはどうしたらいいかを考えた結果、まずサポーターを講義担当とチーム担当の 2 チームにわけ、チーム担当のサポーターがローテーションしてチームを担当する、ということにした。

講義担当は、資料の用意やパワーポイント操作、講師の紹介やインタビューを行う。講義に関しては、以前から手伝ってもらっていたが、今回、明確に役割分担をしたことで事務局の仕事の軽減にも繋がった。野外学習時はチームに入り、塾生と交流を持てるようにした。

結果は、多少見直さなければならない点はあるものの、成功であったと思う。チームリーダーが中心となり協力しあい、塾生が主体となつての活動が行うことが出来ていた。そして、チームを越えての交流も見られ、塾生全体としての絆が生まれているように感じられた。

食事の時に、2 チーム合同で「いただきます」「ごちそうさま」の号令をかけていたこと、バーベキュー、野外学習は 2 チーム合同で行うとした時にも、混ざり合い、声を掛け合っていたことがとても印象的だった。また、与えられた課題がスムーズに出来ない子、山登りで遅い子を塾生同士で助け合い、フォローしあっていたことに、成果を感じる事ができた。

サポーターにおいても、2 つのチームにそれぞれリーダーを置き、リーダーが中心となって行動し、情報共有を行うことで、サポーター同士の交流も深めることができた。



しかし、日替わり制は、サポーターにとっては塾生との関わり方が難しくなる。何度か参加しているサポーターには戸惑いを感じた人もいたようだった。これまでは、サポーターもチームの中にいた。しかし、サポーターはチームのリーダーになってはいけない、ましてや、塾生と一緒にワイワイ楽しんでいてはいけない。サポーターの役割は、塾生が主体となって動けるように、フォローを行うこと、そして「パネルディスカッション」の項でも書いたが、塾生にとって「尊敬される先輩」であることだ。上の立場だということ意識して、適度な距離を持ち、アドバイスや指導をしてもらいたい。

きらめき未来塾において「サポーター」は、とても重要なポジションである。人材の選抜はもちろんのこと、サポーターがより良く動けるよう、事務局としても環境を整えていかなければならないし、サポーターの意識統一や未来塾の理念の徹底など、開塾前に行う研修会の内容、実施方法も検討していく必要がある。

(9) 東日本大震災 被災地の高校生の参加について

今年の3月11日、東日本を大地震・大津波が襲い、東北の各県が甚大な被害を受けた。日本の将来を担う若者を養成する、きらめき未来塾としても被災地のためにできることはないだろうか。そう考えた結果、被災地から高校生を招いて、全国から参加した高校生達と交流しながら楽しく学ぶことで、元気を出し希望を持ってもらいたい。塾生募集に「東北枠」を設定することにした。

しかし、まだまだ生活も困難な状況の中、どのように塾生の募集を呼びかけたらいいのだろうか。そう考えているうちに、齋藤理事長の出身地である宮城県、登米市のご協力を頂けることになった。

登米市は、津波の被害が最も大きかった地域のひとつ南三陸町の西側に位置し、市内の復旧作業を行うだけではなく、気仙沼市、南三陸町、石巻市等の支援基地となっている。

授業のできる環境さえ整っていない学校もある中、教育委員会を通して、参加希望者を募ることはできなかった。そこで登米市 布施孝尚市長のご協力で市内の高校に声をかけていただいた所、佐沼高校から4名と志津川高校から1名の参加希望があった。志津川高校は、南三陸町の高校だが震災により校舎がなくなり、登米市の高校に間借りしているということだった。

そうして高校生達5名と、登米市から引率1名の参加が決定した。最初は、参加し元気になってもらいたいという思いだけだったのだが、この被災地からの参加を、他の塾生達にとっても意義があるものにしたという考えもでてきた。そして、引率の登米市の方に、震災の被害状況や市の対応などをお話頂きたい、そして高校生達にも、震災の体験を聞かせて欲しいとお願いをした。しかし、生徒達がつらいようなら、無理にはお願いしないということも伝えた。

きらめき未来塾開塾の前日の7月31日、宮城県という遠方からの参加なので、大阪にて前泊になる生徒達を空港まで迎えに行った。その時に引率の方から、皆の前で震災の経験について話すことを了承してくれたことを聞いた。

そして塾 3 日目、天体観測を前日に行い、空いた時間を使って、登米市役所の方と高校生 5 名による東日本大震災の状況と体験の発表を行ってもらった。まず、登米市役所の方が、パワーポイントで写真を提示しながら、被害の状況や市の対応、近隣の町への支援について話して頂いた。改めて被害の大きさと深刻さを知った。それから、高校生達の発表となる。



こちらからは無理のないようにとお願いをしたが、皆からの質問も受けたいと言ってくれた。意志を尊重し、全員が順番に発表をした後、質問を受ける時間を設けることにした。

始めは前にでることを恥ずかしがっていた女子生徒達も堂々とし、全員が率直に自分の体験を語り、力強く故郷へかける思いや自分の夢について発表する姿に、その場にいた全員が目頭が熱くなったと思う。中でも、父親が津波で未だ行方不明という状況の中、自分の意志でここに参加し、皆の前で話す佐沼高校の男子生徒の強い姿には心を打たれる思いだった。



卒塾式後、塾生の一人がブログにこう書いていた「言葉を失いました。何も言えませんでした。あまりに衝撃的すぎました。

正直、その子が今、この未来塾に参加しているのが不思議に思いました。」皆が同じ気持ちを抱いていたのではないだろうか。

その佐沼高校の男子生徒の感想には「今回、宮城県という遠いところからの参加を私が決めたのには大きな理由がありました。それは、今回の震災で私の父が『石巻市立大川小学校』という所で津波の被害にあい、大川小学校は教員であった父親を含め多くの児童・教員が犠牲になっています。(中略)本当に今回のきらめき未来塾に参加させていただいて、かけがえのない友と夢を頂きました。これから私は、父の分、そして震災で尊い命を失ってしまった多くの方々のために、社会貢献をして世界中の国々のどこにも負けない日本を形成していくための原動力になりたいと思っています。」と書かれていた。

このような時だからこそ未来塾に参加しようと思った。そして、かけがえのない友と夢を見つけた。日本を形成していくための原動力になりたい。これらの言葉は、きらめき未来塾をやっていることの意義であることを感じた。

そしてそれは、自分達と同じ高校生の話を、真摯に聞いていた他の塾生達にも伝わっていたことだろうと思う。この日を境に塾生全員の意識が変わった。卒塾式の力強い発表、そしてこれまでにはなかった、塾生全員の一体感を感じることができた。



10. 塾生の声～ふりかえりシートから

① 講義を受けての感想や印象に残った言葉、また何を学ぶことができましたか？

- ・坂本講師の講義が印象に残っています。国によって同じものでも価値観が違って、それが当たり前と思っても、貧富の差でできないことがある現状を知り自分のいる立場が恵まれていると思った。
- ・織田講師の「前向きに考えないと向いているものも不向きになる」というお話がとても心に残っています。積極的に前向きに考えることを大切にしようと思うことができたし、もっとどんなことにも文句を言わず楽しんで頑張ろうと思いました。
- ・炭山講師の話では、人間との縁、人とのつながりなど、これからの人生にとって役立つ話をしてくださり、将来について凄く考えさせられました。
- ・黒岩講師の話聞き、あんなに活躍してらっしゃる先生も昔はたくさんの挫折を経験したということを知り、失敗してもいいんだ、そこから成長すればいいんだと思うことができ、少し気持ちが楽になりました。これからは失敗を怖がらず全力で頑張りたいと思います。
- ・山田講師の話は、自分が進みたかった道が経済学部なので、とても有意義だった。
- ・夢への取組み方や目標の在り方、そしてその目標を達成する為の目標設定など夢と真剣に向き合う為の大事な一歩を与えてもらったことにとっても感謝しています。
- ・どの人も共通しておっしゃっていた事は「目標を決める」「他人を思いやる」「感謝を忘れない」この3つは本当に大切なことだと思います。今回の講義で学んだことを活かして必ず夢を実現します!!



② チームミーティング、ディスカッションを通じての感想、印象に残ったこと、刺激を受けたことは何ですか？また何を学ぶことができましたか？

- ・下垣先生の講義の後のディスカッションはとても衝撃的でした。今まで命について皆で語り合う時間などなかったので、各々の思いを聞くことができ凄くよかったです。
- ・人それぞれ全く違った物の見方がある。そしてそれぞれには決して正解などなく、みんなが一人ひとり違った正解をもっていると感じました。
- ・一日一日ごとにチームの仲が深まり、ディスカッションの内容も濃くなっていったのを感じました。初めて出会った人が3日間でここまで仲良くなれるのかと自分でも驚いています。この体験を生かし、色々な人と接して、自分の視野を広げていきたいです。



- ・チームミーティングの時間は、チームや他のチームの友達と仲良くなることのできた貴重な時間でした。仲間と関わることも講義に負けないくらい大切な勉強だと思いました。
- ・同じグループの人と協力して課題をやりとげた時、今までに感じたことの無い楽しさと充実感を味わうことができました。

③ レクリエーションやキャンプファイヤーを通じての感想、学んだことはなんですか？

- ・チームごとの出し物も団結力が高まり、最高に楽しかったです。レクをするのも皆で協力して行うことができ、またチーム以外の子ともたくさん話をする事ができ、充実していました。
- ・みんなが心をひとつに出来たと思います！仲間の大切さ、「友達」「絆」の大切さを再認識しました。みんなに会えて良かった。ありがとう!!
- ・とても楽しかったです。練習時間は短かったけど、その中で皆精一杯、一生懸命練習できたのが良かった。
- ・キャンプファイヤーでは、どの班も個性豊かで楽しい出し物だった。自分の班の発表でも楽しくおもしろいのができたと共に、更に班の友達と友情を深めることができた。
- ・キャンプファイヤーのチームの出し物では、個性が沢山あって、全てのチームが協力しあって楽しかったです。
レクリエーション担当のサポーターさん達も、とても面白くて、ゲームも体を動かしたものが多くて、全身を使いながら笑顔の絶えない時間でした。



④ 未来塾で学んだことを、これからの生活、学習、または、目標や将来の夢の実現のために、どのように役立てていきますか？

- ・この塾を通して、自分は変わらないといけないなと思いました。日頃からの生活習慣や学校の様子はもちろん、目標のあり方など、あらためて考えさせられました。これからは1日1日を大切に、今まで以上に有意義な生活を送りたいです。
- ・講義で、挫折を乗り越えてきた話を聞いたので、自分がもし人生の壁にぶつかったら、その言葉を思い出して自力で切り開いていきたいです。そして社会で生きていくためには人との関わりが重要になるので、未来塾で培った仲間との交流を生かしていきたいと思います。
- ・未来塾で学んだ目標を立てることの大切さ、そしてそれに向かうための心を生かし、自分の夢を変えるため真剣に向き合おうという気持ちになった。そしてこの未来塾で共に学んだ仲間のように同じ志を持った仲間のことを伝えて、一緒に話せる仲間を探すことが大切だと思った。
- ・ほとんどの講師の方がおっしゃっていた「感謝の気持ち」を大切にしていきたい。この未来塾で「がんばり方」が分かった気がするので、学校やクラスで自分から頑張っていくことで、周りの皆にも還元したい。
- ・塾生の中に東北地方から来ている人がいて、話を聞くと、同じ学年の人がとても悲惨な目に遭っていて、改めて自然災害の怖さと、今自分に何ができるのか、もう一度考えてみようと思いました。



- ・講師の方々や友達と語り合う中で、しっかりと自分の夢を見据えることができました。これからの学校生活や日々の日常生活の中に、塾で学んだ「何事にも諦めず取り組むチャレンジ精神」が生きていくと思います。自らの進路に悩んだとき、挫折したとき、今回の経験をばねにして乗り越えていきたいです。

11. 事務局総括～反省と来年に向けて

認定 NPO 法人の認可を得て、新たなスタートをきった未来塾。毎年開催地が変わるので作業の進め方に苦慮するが、本年度は宿泊場所と研修場所が隣接していたので昨年よりはかなり楽になった。

今年の会場の事前準備や塾生の受入等をする先発組は 4 名で昨年より 1 名の増員となった。そのお陰で昨年よりは余裕があったように思うが、やはり時間制限のある中での準備は大変だった。空調や照明の準備等はしていただいていたが、走りまわっての諸々の作業でたっぷり汗を流した。

塾生の集合や移動については、混乱もなく行うことができた。東京と広島からの参加塾生は途中から合流する予定となっており、合流地点まではバス内に空席が多く緊張感の高いバス内で盛り上がるかどうかと、レクリエーション担当のサポーターを心配させたようだが、これも時間の経過と共に塾生間の緊張がほぐれたようだ。

入塾式では、セレモニーの要素を強くするために、塾生からの宣誓を取り入れた。これから未来塾が始まり、多くのことを学びとろうという決意を表明してもらうためにも良かったのではないだろうか。今後も続けていきたい。

講義については、プロジェクターが上手く作動せずどうなることかと思ったが、新しい機種のものに変えていただいたお陰で、本番では問題なく作動した。スクリーンがもう少し大きなものであれば後方の塾生や見学者にも見やすかったように思うが、これは会場の広さにもよるので限界があるだろう。

全体的に講義内容や移動等も考慮しプログラムが出来上がっていたように思えるが、講義の内容が専門的すぎるものもあったようだ。全ての要求に対応する必要はないのかもしれないが、塾生からの振り返りシートを見る限り、専門的な要素の強い講義のときは感想や意見の記入が少なかった。その反面、少数ではあったが興味のある塾生から、先生が講義で使われていた資料が欲しいなどのリクエストがあったりもした。

どのような内容の講義を取り入れるのか、そのためにどんな講師の方に来ていただけるのかを考慮してからの講師選びを試行していてもいいのではないだろうか。今までは全体的に塾生の年代からかけはなれた年齢層の方々からのお話が多い。確かに、経験豊富で成功を収めていらっしゃるの方々からの言葉には現実的な重みがあり、いい刺激となっていると思う。しかし、もっと若くこれからの世代の方々からの話を聞くことも、これからの自分の人生に目標を持つことに、それを実現することに、もっと現実味が増し、実感が得られるのではないだろうか。これも簡単ではないが今後の未来塾の内容をさらに深めるためには必要不可欠となるのではないだろうか。



今回の野外学習は最終日に行った。猛暑の中での実施なので、事前から熱中症対策をよく話し合い、準備するものにも気を配った。当日は体調不良で登山できなかつた塾生もいたが、ほとんどの塾生達は元気に寒霞溪登山を楽しんだ様だ。

登山中は、体調の良くない生徒がいないかどうか、チームで登るペースをあわせるなど、塾生同士が確認しあったり、気にかけていたりしていた様子だった。

猿にお土産を捕られた塾生がいたようで、野生動物のいる地域に行くときにはしっかりと注意を促しておかなければならない。幸い怪我をすることがなかったのが良かったが、これも熱中症対策と同じく、事前の注意喚起が大切である。

昨年度からの取入れたパネルディスカッションは概ね好評だったようだ。やはり、大学生活や就職のことなど、塾生達にとっては一番興味や心配のある話題を語ってもらえるので関心を持って聞けたのではないだろうか。

残念だったのは、内容がまとまりきれいな感じがなかったり、全体としての話題が似たような内容に終始してしまったような印象を残してしまった事である。パネリストの語る内容や、進行方法については常に新しいアイデアを取り入れ、常に新鮮味あふれるものになるような工夫を凝らすことが大切である。せっかくのいい企画である。是非、内容の充実したものにしていきたい。

チームミーティングは、チーム旗作り、創作ボディパーカッション、キャンプファイヤーでの出し物など「チームで協力し1つのものを完成させる」課題を行った。

今年は講義数が多く、ミーティング時間が減ってしまったため、朝の時間を活用することにした。朝一番から生き生きと課題に取組み「チームで協力すること」を楽しんでいる様子うかがえた。そして、レクリエーションでは、今までになかったような、塾生全員の一体感を感じることができた。それ程に塾生達の絆を強くしたのは、東日本大震災という未曾有の災害を直接経験した宮城県の高校生が参加し、彼らの口から体験と復興への強い思いを聞いたことだろう。皆がその思いを共有し、卒塾式では、自分自身の目標のため、日本の未来のために進もうという力強い発表を、聞く事ができた。

毎年ではあるが、猛暑の中、四泊五日の日程をこなすのは、塾生もスタッフも体力面で大変である。しかし、きらめき未来塾 2011 は、天候にも恵まれ事故もなく成功裡に終了した。講師の方々、サポーターを始めとして、協賛・ご寄付をいただいた団体・法人・個人の皆さま、そして会員の皆さま、本当にたくさんのご協力をいただいた。

このことに感謝申し上げますと共に、反省を生かして来年へとつなげていきたい。未来塾が回を重ねるごとにさらに良いものとなりますように！



1 2. 事務局活動

(1) 後援許可・協賛を得る

大阪府、兵庫県、京都府、広島県および飛騨市の各教育委員会へ、塾の開催趣旨・内容・塾生の募集要項等について資料を添えて後援の申請をしたところ早々に了承していただいた。

さらに香川県、小豆島町、土庄町の教育委員会にも後援申請を行い、了承していただいた。また、大阪府、兵庫県、京都府の各私立中高連、大阪梅田と大阪北梅田のロータリークラブ、社団法人関西経済同友会、NHK高松放送、四国新聞社、日本経友協会、飛騨市、岐阜新聞・岐阜放送からも同様にご後援をいただいた。

また、大阪大淀ロータリークラブにご協賛いただいた。

(2) 塾生の募集状況

大阪府、兵庫県、京都府、広島県、香川県、小豆島町、土庄町の各教育委員会、並びに大阪府、兵庫県、京都府、各私立中高連のご協力により、大阪、兵庫、京都、広島、香川から 53 名の申込があった。他にHP等から応募があり、東京、千葉からの高校生の参加を得て、合計 60 名となった。

また、東日本大震災の被災地からも参加して頂きたいと呼びかけをしたところ、宮城県登米市のご協力をいただき、5 名の申込があった。塾生は合計 65 名（男子 38 名、女子 27 名）となった。

(3) 協賛金、寄附金の収受について

きらめき未来塾の趣旨にご賛同いただいた法人 49 社、個人 75 名の方々から多額の協賛金、寄附金をいただいた。

また、現在、特定非営利活動法人きらめき未来塾の会員は、法人 30 社、個人 87 人である。

(4) プレスリリースについて

産経新聞、四国新聞、山陽新聞、スポーツニッポン新聞、保険毎日新聞各紙面に、プレイベントのパネルディスカッションおよび、きらめき未来塾 2011 の開催記事が掲載された。

(5) 事務局打合せ

H21 年 10 月	・開催候補地 小豆島視察
11 月	・開催地を小豆島ふるさと村に決定 ・開催期間を平成 23 年 8 月 1 日～8 月 5 日の 4 泊 5 日に決定 ・塾生の募集人数（東京、広島地区含）を 80 名以内に決定
12 月	・カリキュラム（案）、講師依頼、スケジュール（案）について検討 ・パンフレット（案）を作成
H22 年 1 月	・社会人サポーター・学生サポーターの役割、募集について検討
2 月	・カリキュラム策定 ・パンフレット作成
3 月	・後援、協賛依頼 開始 ・事務局・サポーター合同説明会の日時・場所の決定 ・開催地視察（講義会場、宿泊施設、野外学習等の各候補地）
4 月	・社会人サポーターの派遣を数社に依頼開始 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始 ・各企業等に協賛、寄付依頼状送付
5 月	・基本理念の策定 ・参加塾生の受付開始
6 月	・東北からの参加者の募集を開始 ・サポーター確定 ・レクリエーション担当サポーターとの打合せ ・野外学習について検討 ・マニュアルの作成 ・合同研修会準備
7 月	・事務局・サポーター合同研修会開催 ・各講師資料の手配 ・テキスト作成 ・塾生、サポーターへの配付物の作成 ・参加塾生人数集計 ・参加塾生・教育関係者へ案内発送 ・横断幕、記念品（Tシャツ、キーホルダー）の購入 ・テキスト、カリキュラム備品等、最終確認 ・備品等の発送。
9 月	・きらめき未来塾 2011 開催についての総括

13. ご協賛・ご協力いただいた法人・団体・個人

〈敬称略 順不動〉

法人・団体

アートコーポレーション	株式会社サバンナ	内外電機株式会社
株式会社 RCC 文化センター	株式会社ジャパンファミリー	株式会社日商エージェンシー
株式会社 IAG コーポレーション	有限会社信成サービス	株式会社ニッポーファミリー
関西アイエヌエスサービス株式会社	株式会社スポーツニッポン新聞社	日本興亜損害保険株式会社
株式会社アイビーエス	株式会社ゼロム	ニューダイヤモンドファミリー株式会社
アドベンチャーコーチング株式会社	株式会社損害保険ジャパン	ノイエス株式会社
梅ヶ枝中央法律事務所	太陽ASG有限責任監査法人	特定非営利活動法人 場の研究所
エース損害保険株式会社	中国企業株式会社	株式会社フォーライフ
株式会社エヌアイ	株式会社中国放送	株式会社フレディ・カンパニー
大阪緑風観光株式会社	有限会社長和	北海道ファミリー株式会社
株式会社加登	ソーサン株式会社	株式会社三喜ビジネスコーポレイション
九州共栄ファミリー株式会社	株式会社ディヴォーション	森下仁丹株式会社
株式会社キョードー大阪	東京海上日動火災保険株式会社	株式会社ユニバーサルファミリー
国際保険株式会社	関西公務金融部	株式会社レックスリース

他 記載不可の法人・団体を含む 合計 49 団体・法人

個人

浅井 清彦	河合 努	定久 彰利	中井 保	宮内 健
葭 範夫	川壁 正彦	佐土原 源	中澤 尚文	村岡 正啓
有吉 浩二	川野 みどり	塩入 恒夫	長沼 三郎	初山 敏雄
石松 千咲	木内 正俊	篠原 良洋	西尾 誠一郎	森 薫生
磯中 淳	菊池 清市	新貝 寿行	西澤 昌彦	矢島 秀勝
伊藤 啓司	木村 道弘	住川 功	西澤 良臣	矢野 巖
岩元 大輔	清里 威夫	杉本 香世子	林 正壽	山口 多喜夫
植松 美喜子	草間 邦博	鈴木 規夫	羽山 幸男	山田 克明
浮氣 利廣	國谷 昌賢	外池 徹	原納 公也	山根 博明
大石 正守	小原 和重	竹岡 和彦	古本 勝美	山幡 一雄
大竹 美喜	小松としゑ	チャールズ・レイク	松岡 大藏	吉澤 三喜男
柏崎 昇一	小山 健二	坪井 一字	松澤 一夫	吉澤 健
片岡 聡	齋藤 洋一	遠越 英行	松本 茂	若杉 公一
加納 芳邦	桜井 洋二	伴野 國久	松本 高明	和田谷 笑子

他 記載不可の方を含む 合計 75 名

2011 年 9 月末日現在

14. 後援・協賛・理事会

後援・協賛（順不同）

大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 京都府教育委員会 広島県教育委員会
 香川県教育委員会 飛騨市教育委員会 小豆島町教育委員会 土庄町教育委員会
 大阪私立中学校高等学校連合会 兵庫県私立中学高等学校連合会 京都府私立中学高等学校連合会
 大阪大淀ロータリークラブ 大阪北梅田ロータリークラブ 大阪梅田ロータリークラブ (社)関西経済同友会
 アスリートネットワーク 飛騨市 岐阜新聞・岐阜放送 NHK 高松放送局
 四国新聞社 日本経友協会

理事会

理事長	齋藤 洋一（神戸大学名誉教授/社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会 副会長）
副理事長	吉澤 健（塾長）（元大阪府副知事/前 四国大学経営情報学部教授）
副理事長	柳本 晶一（アテネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督/アスリートネットワーク理事長）
専務理事	前田 嘉昭（大阪教育大学講師/前大阪府立阿倍野高等学校 校長）
理事	大竹 美喜（名誉塾長）（アフラック創業者・最高顧問）
理事	大石 正守（発起人代表）（国際保険株式会社 代表取締役会長）
理事	山田 茂善（太陽 ASG 有限責任監査法人 大阪事務所長 代表社員 公認会計士）
理事	若原 康正（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 代表取締役社長）
理事	山幡 一雄（大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス 常務取締役/国際保険株式会社 顧問）
理事	下垣 真希（ソプラノ歌手/名城大学大学院多文化共生論講師/名城大学ドイツ語講師）
理事	葭 範夫（株式会社ディヴェーション 代表取締役）
理事	矢野 巖（矢野 巖税理士事務所 税理士）
理事	西澤 良臣（事務局長）（国際保険株式会社 顧問）
監事	浮氣 利廣（浮氣税理士事務所 税理士）
特別顧問	野田 智義（特定非営利活動法人 ISL 理事長 経営学博士）
特別顧問	朝原 宣治（北京オリンピック 400mリレー銅メダリスト/アスリートネットワーク副理事長）
特別顧問	鈴木 規夫（プロゴルファー 社団法人日本ゴルフツアー機構常任理事）
特別顧問	濱本 英輔（株式会社ロッテ顧問）
特別顧問	坪井 一宇（大学教授）
特別顧問	松岡 大藏（税理士 大阪国税局元徴収部長 桜美会（国税局 OB 会）会長）
特別顧問	浅見 正義（浅見経営事務所 日本経友協会会長）

15. きらめき未来塾 2011 スタッフ・ご協力いただいた方々

大阪事務局 次長	舟尾 逸弘 山田 明仁
大阪事務局 スタッフ	米田 拓司 大崎 剛 小谷 登 塚本 貴一 近藤 由美子 櫻井 宇多 三谷 尚子 宮城 裕美
広島事務局 事務局長	神田 雪子
広島事務局 スタッフ	新谷 雅司 山崎 章子
事務局アドバイザー	高橋 道子 宮原 あけみ
事務局サポーター	塩崎 隆幸 西村 和能 永井 貴
サポーター	石松 千咲 植田 俊矢 大森 健一 川畑 陽子 木葉 豪 久保 裕一朗 小松 真之 清水 直樹 高崎 翔平 武 宏美 長倉 愛 中村 容子 福井 智恵子 山本 美希 若杉 昌哉
写真担当	伴野 國久
映像担当	吉川 努
ご協力	宮城県登米市 総務部 市長公室の皆様 株式会社ゼロムの皆様 小豆島ふるさと村の皆様

2011/9/6 (火)
 保険毎日新聞



「心清き人」「心熱き人」に育つてほしいとの基本理念が制定された。

深き人「心清き人」
 「心熱き人」に育つてほしいとの基本理念が制定された。

官による認定NPO法人として認可された。認定NPO法人となったのを機に、未来塾の設立趣意

に基いて、国際社会、日本、地域で活躍する有能な人材、そして「心強き人」「心広き人」「心

クのアシエーツ(販売代理店)である国際保険の大口正守代表取締役会長が発起人代表となり、今年3月には、国府庁長

て設立されたもの。2010年11月に特定非営利活動法人として、さらに



きらめき未来塾2011

次世代担う高校生対象に 被災地・宮城県からも参加

高校生対象の次世代リーダー育成を目的とした「きらめき未来塾」が、今年も8月1日から5日までの4泊5日の日程で、香川県小豆島で開催された。今年は、近畿各府県・東京・広島の高校生もほか、東日本大震災の被災地である宮城県の高校生も参加した。

7回目となる未来塾の開始に先立ち、アフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏をコーディネーターに、参加した高校生たち



宮城県の塾生による発表

アネネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督の柳本晶一氏、北京オリンピック400メートル銅メダリストの朝原宣浩氏らをパネリストに迎え、「次世代を担う青少年の育成」と題するパネルディスカッションを開催、約450人の聴衆の中、活発な議論が展開された。

今回の開催に当たっては、東日本大震災で被災した東北の高校生を招待することを決め、呼び掛けた結果、宮城県登米市から5人の高校生が参加。各府県の高校生たち

と仲良く活発に研修を受けた。課題発表時には、被災地やボランティア活動の体験を発表し、今ある自分を見つめ直す機会となった。最終日は、野外学習として「ムスコ」にまつこの寒霞渓登山で汗を流した。

同塾は、「日本の未来像を描き、その実現を目指す」という趣旨を掲げ、これを支えるリーダーの養成を目的として、国際保険代表取締役会長の大口正守氏が発起人代表となり、設立されたものである。

今回の「きらめき未来塾2011」には、3月11日に発生した、東日本大震災で被災された東北の高校生も招待され、宮城県登米市から5名の高校生が、近畿、東京、広島、地元小豆島の高校生たちと仲良く活発に研修を受講しました。課題発表時には、被災状況、ボランティア活動の体験の発表があり(II写真)、これらの経験を通じて幾多の艱難(かんなん)辛苦に打ち勝って、少しでも地域社会に貢献しようとする姿勢が多くのご感動を呼びました。

来塾の趣意に添って医療・法曹・スポーツ・文化・経済等各界の第一人者を講師に招き、熱心な講義と多くを学びたいとする塾生の質問や、会場は活気に満ちていた。また、リーダーとして必須条件である、自分の考えを正直に表現することやコミュニケーション能力を高めるために講義後は討論の時間を設定。自分の意見を述べることも、他人の意見もよく聞き、考え、全体と

2011/9/12 (月)
 産経新聞



「きらめき未来塾2011」 次世代を担う高校生のために 8月1日から5日まで小豆島で開催

7回目となる「きらめき未来塾2011」が、8月1日から5日までの4泊5日の日程で、青い海、青い空の自然環境の素晴らしい小豆島で開催されました。開塾に先立ちアフラック創業者・最高顧問の大竹美喜氏をコーディネーター、アネネ・北京オリンピック女子バレーボール日本代表監督の柳本晶一氏を迎えて、「次世代を担う青少年の育成」と題するパネルディスカッションを開催。

この未来塾は、日本の未来像を描き、その実現を支える人材を担える人材、これからの日本を支えるリーダーの養成を目的として、国際保険代表取締役会長の大口正守氏が発起人代表となり、設立されたものである。

今回の「きらめき未来塾2011」には、3月11日に発生した、東日本大震災で被災された東北の高校生も招待され、宮城県登米市から5名の高校生が、近畿、東京、広島、地元小豆島の高校生たちと仲良く活発に研修を受講しました。課題発表時には、被災状況、ボランティア活動の体験の発表があり(II写真)、これらの経験を通じて幾多の艱難(かんなん)辛苦に打ち勝って、少しでも地域社会に貢献しようとする姿勢が多くのご感動を呼びました。



2011/9/29 (木)
 スポーツニッポン



「きらめき未来塾」開催

日本を支えるリーダー養成

高校生を対象に日本を支えるリーダー養成を目的とした「きらめき未来塾」が8月1日から4泊5日の日程で、香川県の小豆島を舞台に開催された。元女子バレーボール日本代表監督の柳本晶一氏や、北京五輪400メートル銅メダリストの朝原宣浩氏を講師に迎え、「次世代を担う青少年の育成」をテーマに討論会を実施。経済、医療、文化などさまざまな分野での第一人者が講義を行うなど充実の内容となった。このきらめき未来塾は国際保険(株)・大口正守代表取締役会長が発起人代表として設立。今回で7度目の開催となった。



きらめき未来塾事務局

〒530-0038 大阪市北区紅梅町 5-25 IAG 紅梅ビル（国際保険株式会社 総務人事部内）

TEL 06-6352-3579 FAX 06-6353-2725

mail: info@kiramekimiraijuku.jp

URL: <http://kiramekimiraijuku.jp>

未来塾へのご感想、ご意見をお待ちしております